

## 第225回 令和8年5月11日（月）

### 「新緑の季節」

本当に緑色が気持ちの良い季節になりました。花が咲き乱れる春を好きな人もいますが、私は5月の新緑の季節が一番好きです。風がさわやかで暑くもなく、寒くもなくという季節のはずでしたが、近年はすいぶん暑くなってしまいました。それでも湿気が真夏ほどではないので日陰にいると過ごしやすく感じます。

昨年も書きましたが、緑の木々に1枚ずつ葉っぱが見えるのは微妙に緑色が違うからだと考えています。一口に緑色といっても種類はどれくらいあるのか調べてみました。

「緑色」だけで厳密に分類すると、その数は非常に多く、具体的にいくつと定義するのは難しいですが、科学や芸術、デジタルの分野で使われる分類基準をもとにいくつかの視点から考えてみます。

緑色は、可視光においておおよそ 520nm～570nm の波長域に該当します。この範囲内で、特定の波長ごとに色を分割すると理論上では無限に近い数の「緑」が存在します。ただし、私たちが識別可能な色には限界があり、通常のディスプレイやプリンタでは約数百万色を表現できますが、緑の範囲だけで考えると数千～数万の色を区別できると言われています。

色彩学や伝統的な色名では、緑色はさらに具体的に分類されます。以下はよく知られる緑色のカテゴリーの一部です。

和名では 「鮮やかな緑 若草色 黄緑 萌黄色 常磐色 翡翠色」など。

洋名では 「ピュアグリーン オリーブグリーン エメラルドグリーン ミントグリーン  
ラムネグリーン」など。

日本伝統色には「青」に近い緑、「黄」に近い緑、深みのある緑などの微細な色名が存在しており、これだけでも数十～数百の色があります。

緑色を厳密に分類する方法によって異なりますが、以下のように考えられます。

科学的視点（波長や RGB）では、数千～数万色以上。芸術・色名的視点（慣用色や文化的分類）では、数十～数百色。実用的視点（印刷やディスプレイ技術）では、数百～数千色。

どの視点を採用するかによって結果が異なるため、「緑色」の分類はその目的や基準に依存しますが、その範囲の広さから言って、非常に多くの種類の緑色が存在するといえます。

緑は生命の色というイメージがあります。元気をもらえる色でもあります。特に若草色に近い鮮やかな緑は心を癒してくれます。真夏前の良い季節です。外で緑を眺めてみるのも良いのではないのでしょうか。